

相談センター「生活の日本語教室」開設に向けて

宇佐市外国人総合相談センター 仲 富代

1. プログラムの概要

対象:生活の中で日本語をもっと使えるようになりたい、または 地域の人と交流したいと思う外国人在住者。
主に日本語未学習や初級レベルの人。

内容:外国人参加者希望者と「外国人と交流したい日本人(日本人サポーター)」を募り、週1または隔週の頻度で、日本語学習と交流を目的とした日本語教室を開設する。

2. 課題

相談センターでは、相談者から、「日本語を学びたい。」という問い合わせがくることがある。

現在、市内には JLPT 対策の日本語教室があるので紹介できるが、生活に必要な日本語会話(以下、「生活の日本語」)を学びたい人には、市外の教室を紹介するしかなかった。

学びたい人がいるのに、学べる教室がないのだ。

また、多くを占める技能実習生には、自転車、または自転車も許可されないなど、移動手段に制約がある。市内の周辺部に住む人には JLPT 対策の教室にも、通いにくく、学習機会が行き渡っていないのが現状である。

現在の市内の日本語教室の状況



3. 理由や背景

実習生や特定技能の資格で市内に来て働く外国人の若者が増えている。4月には1000人を超えた。

多くは、母国で日本語を N5・N4 レベルまで学習してきているが、実際に日本で生活するには、十分な日本語とはいえ、日本でも日本語の学習を続けていく必要がある。

市内在住者の中には、すでに数年暮らしているのに、日本語が全く話せないという年配の人もある。日本人との交流がないため、日本語能力が伸びず、生活に広がりがない状況なのだ。外国人の方が豊かな生活を送るには、仕事の場だけでなく、地域の人との交流の場も大事。

また、今後、国の方針として「実習生」制度が見直され、「特定技能」の形に移行されていけば、外国人家族や子どもが増え、いろいろな年代の外国人への行政や地域のサポート、交流が不可欠になってくるだろう。

今、「日本語」を学びながら交流できる機会を作ることは多くのメリットがある。

4. 実践計画と 進捗状況(行ったこと)

	9月時点での計画	進捗状況(行ったこと)
2023年 9月	プロジェクトについての活動計画と構想作成を作成共有	・センター所長と構想共有 ・教室の試行(ニーズ)
10月	プロジェクトについての活動計画と構想作成を共有(相談センター内) 市への交渉を、さらに具体的にする。	・センタースタッフと構想共有 ・市議会議員への活動報告に日本語教室についても盛り込み、問題を共有化。
11月	ニーズ調査(アンケート形式)市役所を通して or 企業を通して(人数、レベル、国籍、希望曜日・時間、オンライン or リアル)	・センタースタッフとワークショップを行い「開設のメリット」を共有した。
12月	ニーズ調査(アンケート形式)市役所を通して or 企業を通して(人数、レベル、国籍、希望曜日・時間、オンライン or リアル)	△市より、来年度予算化は難しいとの情報
2024年 1月	ニーズ調査のまとめ → 教室の方向性 地域の日本人サポーターの募集 福祉センターの講座へのアプローチ。	・イベントを利用し、ニーズ調査(アンケート)をした。(1回目) ・教室の試行継続中
2月	地域の日本人サポーターの募集	
3月	4月の新年度スタート時に、正式に「日本語教室」を開設。	

5. 問題点・いただいたコメント

△現在、市へ「生活の日本語教室」開設について交渉しているが、決定しているわけではなく、市の回答次第。

△開催時間設定の難しさ。参加希望者それぞれの勤務実態が異なる中で、週1や隔週の1日に特定して設定しなければならない。

△市周辺部などの空白地へも希望があれば、オンラインを使った学習の場を設定したい。そのための方策を探る必要がある。

△実際、学習希望者やサポーター希望者がどの程度いるのか、本当に集まるのかわからない。

〈フィードバックコメント〉

- ・アンケートで、「会話の日本語」とは何を指すのか、イメージできるようなアンケート設問をたてること。
- ・サポーターの役割を具体的に考えておく。講座を開催し、その中から募る方法など、教室の趣旨が、正確に伝わるような工夫を。 →「事前のスタッフ間の共有」「サポーターとの共有」
- ・この教室があることで、地域にどのような意義やメリットがあるのか言語化し示すこと。 →「メリットの言語化」

◆本研修に参加し、ファシリテーターの方からのコメント、またフォローアップ研修で、以下のような見直しや気づきをいただいた。

6. 考えたこと、行ったこと

- ① 「事前のスタッフ間の共有」が不足していると考え、所長と意見交換したり、定例スタッフミーティングで、「相談センターに日本語教室があることのメリット」についてワークショップ形式で意見の共有をしたりした。

★開設によるメリット（「生活の日本語」を学ぶ交流型日本語教室ができることで・・・）一部★

★外国人のコミュニケーション力が伸び、住みやすい市になる。

外国人の若い世代にも住み続けてもらえる。→労働力不足が補える。市に活気が出る。

★日本人も外国の考え方や文化に触れることで、刺激を受ける。

宇佐市に居ながら、国際的な視点を持てる。 →「生きがい」「やりがい」「夢」につながる。

- ② 「市全体の問題」と考えてもらうため、市議会議員への活動報告の場を持ち、現状を伝えた。「日本語学習の必要性」「教室開設の必要性」を伝えることができた。
- ③ ニーズをはっきりさせるため、相談センターのイベントを利用し、日本語についてのアンケートをした。
交流イベントの場で、1回目の「日本語アンケート」を行うことができ、「日本語をもっと話してみたい」という参加者全員の声を拾うことができた。アンケート内容は検討が必要だが、今後も、続けてデータとして蓄積し、市への交渉材料としたい。
- ④ ニーズ調査をかねて少人数の「プレ教室」を開いた。「どんなことを学びたいか」等を対面の学習者から知ることができている。



プレ教室・シラバス		
1 自己紹介	8 OOが すきです。	15 どうやって つくりますか？
2 きょうは、なにをしましたか？	9 まつりにいきましょう。	16 かぞく・ともだち ～がいます。
3 きょうは、～しませんでした。	10 いくらですか？	17 お正月 緊急電話。
4 いつ、～しますか？	11 まつりは どうでしたか？	18 ちかくの 人に ききます。
5 きょうは、あつかったです。	12 どこに いきましたか？ いつ	19 びょうき ドラッグストアで
6 はなが、きれいです。	13 コーヒーを飲みましょう	20 くすりを かいます
7 りょこうに いきたいです。	14 どんな へやですか？	

7. 今回果たせたの私の役割と 今後

今回、相談センターでの「日本語教室」開設にむけ、計画を共有したくさんのフィードバックコメント等をいただいた。そして、私自身この計画や今後の方策について客観的な見方を取り入れてすすめることができた。

具体的には、相談センター職員と日本語教室の問題を考える場を設定し、共有することができた。また、市議会議員等に地域の問題を広げることでもできた。

現段階では、残念ながら来年度の行政の助成の下での開催は難しい状態になってしまった。

相談センターは、今後も「日本に来てよかった。来てもらってよかった」と思える社会づくり、関係作りをめざしていく。その重要なポイントになる日本語サポートの面でも行政の理解を得て進められるように、本活動に継続して取り組んでいきたい。